法政大學 社会学部 同窓会報

Vol.33

信　条

本会は、同窓生相互の連絡を密にして親睦を深め、社会学部及び法政大学の発展のために活動することを目的とする。（会則第3条）

法政大学社会学部同窓会

発行人　鹿山　秀佳（同窓会会長）
編集人　伊藤　正義（会報委員長）
〒194-0298　東京都町田市相原町4342
法政大学3号館（図書館・研究所棟）5階
TEL・FAX　042－783－2421
http://www.hoseisoc-dousoukai.jp/
郵便振替口座　02東京00140－1－63762

84年に多摩キャンパスに移転した社会学部棟

徳安 彰 常務理事・水野 節 夫 社会学部長・鹿山 秀佳 同窓会長

法政大学と社会学部のいま

目指すものは？そして同窓会は…．

創立20周年を迎える社会学部同窓会

大学はこの10年間、6学部から15学部体制への拡張型改革で大きく変化した。学部の教学改革も3学科7コース8プログラム制が3年目に入り着々と進行。そこで、「明日の法政を創る」充実型改革の視点で、徳安常務理事、水野社会学部長、鹿山同窓会長とともに、それぞれの立場で鼎談をお願いした。（編集・演名達）

鹿山秀佳同窓会長　大学も増田総長を中心に新しく変りましたが、同窓会並びに卒業生組織の校友連合会の立場で見ると、例えば法政フェアin新潟とか全国卒業生の集い愛媛大会、地方の支部総会とか今までになく活気が出てきている。

大学と卒業生との関係を再構築し、時代に適合した「卒業生のあり方」プロジェクトの座長徳安常務理事と連合会代表としてそれぞれの窓口になり、これからの新しい組織のあり方、財政的な裏づけ等を模索しながら、新しい体制に踏み出すような環境が生まれてきている。

そうした中で、社会学部同窓会は3月に創立20周年を迎える。我々としては、10月24日に市ケ谷で記念式典を開催し、様々な記念事業を計画している。

本日は、徳安常務理事からは大学全体の今後の方向性を、水野学部長からは学部の教学改革を中心に具体的にお話し願いたい。

二極化が進む私学
大学間競争の激化

徳安彰常務理事　私立大学全般の危機というには大雑把過ぎるが、二極化している。つまり、定員割れして、学生がこなくなり、つぶれてしまう大学が一方にある。その一方で、当面の状況として、大手上位校にとっては比較的受験者がむしろ集まり、追い風になっている。

問題は今のうちに改革をやらないと、常に同じ数だけの受験生が来てくれるとは限らないから、早く次の手を打たないと遅れをとる。少子化が進み大変だと騒ぐ必要はないが、その次を見ておかないといけない。

水野節夫社会学部長　学部はカリキュラム改革を続けていますが、一方では二極化があって、大学間のランキングが上がり、事実上効果を発揮している。それを見るとかなりギリギリのところでクリスハンガー状態だと思っている。社会学部だけでできるというものより全体の法政ブランドの中での社会学部という感じでしょう。極めて難しいのは、そういう位置にいるから、変っていかなければいけないという感じが、前にいくかどうかというのが難しいところである。

徳安　もう後ろから完全に火が付いているから、早く前に走らないとどうにもならないだろうという行動の切迫感がない。これからの舵取り次第では、いい方へシフトできるかも知れないし、舵取りを間違えるとその下へ落ちてゆく可能性もかなりある。

水野　学部ではそうではないが、大学院を見ていると象徴的です。

徳安　全般に専門職も研究者養成も社会人も全部大変な状況です。制度設計に問題があったのか専門職大学院生の合格率が上がらない。

また、研究者養成の従来から考えていた大学院が、まさしくいま瀬戸際です。なぜかというと国立の大きな大学が大学院大学化したわけで、優秀な学生がどうしても学部の偏差値が上だと思われる大学に吸い上げられてしまう現実がある。

水野　ある種の方向性を持って行きながら蓄積していかねばならない。しかもそれは個人ではないので。

徳安　資金を取ってくることもさることながら、人材を集めて、法政の中で研究者を養成したいのであれば、相当な優遇策をとらないと。教員が自分達がレベルが高いからレベルの高いのがくればいいのだといっていては駄目で本当に欲しかったなら、「ならば法政に行こうか」というインセンティブをつけないといけない。

水野　仕組み的に、東大とか大手のところはかなりな数を取るのです。そうすると個人の器量・努力のレベルの問題でなくて、同じ条件ですと向うに行ってしまう。国立と私立と学費の差もありますし。

鹿山　例えばスポーツなど最近どんどん落ち込んでいる。優秀な人材を確保しようとすると、早稲田等がやっているようだが、ある面での優遇処置とか、奨学金制度とか推薦制度とかお金をつけることをしている。

研究者を集めるにも、きちんとした仕組み・制度がないと皆んな持っていかれる状況ですね。

徳安　集めると言う観点から見ると、教員の定員は増えませんから、法政に来たいという優秀な研究者は沢山います。教員を採用する観点では、現時点ではまだ好い状況であるといえる。

明日の法政を創る審議会が
広く英知を集め次の改革を

6事項が諮問さる
魅力ある大学創り

―新しい体制で理事会がこの3年間で先を見ながら、どういう大学にしようとしているのか。

徳安　何よりも学内の英知を広く集めて、色んな議論の中から新しい法政の動きを作って行こうという手続き論だった訳です。いま、その中身のために「明日の法政を創る」審議会を昨年7月9日に立ち上げて夏休み明けから少しずつ本格的に始動してきた。

これは94年の阿利総長の諮問にこたえる形で始まった「21世紀の法政大学」審議会と形の上ではわりと似ているのですが、これは中長期的な課題を中心に議論したのに対して、まさしく"明日"で今期の理事会でも場合によっては政策に乗せられる、少なくとも3年後の次の理事会には引継いで是非実現してもらいたい。それぐらいのスパンで具体化できる政策を皆で考えて議論して、法政を改革して行こうという主旨でつくられた審議会です。解決したい諮問の事項は

1、教学改革
2、国際化推進
3、研究高度化
4、学生・卒業生・スポーツ文化
5、役員選出の在り方
6、教職員組織・運営の在り方

等幅広く色んな問題を作業部会を作りながら答申していく体制を指向して行く。

それは、増田総長が「21世紀の法政大学」審議会のかなり中心的なメンバーで活躍されていて、教職員を広く巻き込んだ議論があったことが、90年代後半からの法政改革による大学のイメージアップに繋がった思いがあるので。いわば、トップダウンではなくて、広く英知を纏めて皆んなを巻き込んで行くことで、もう1回次の改革のエネルギーを結集して創ることです。

拡張から充実へ転換
提携のネットワーク

―常務理事就任当初に拡張型改革から充実型改革でさらに内容を充実する方向を提言されましたが。

徳安　いまのところ、理事会全体としてもどちらかといえばそういう方向で考えたい。いま全国的に見ると拡張の動きというのは、一番極端な形態は、企業のM＆Aのように、どんどん合併して大きくなって行く形をとるというのがあるのですが、これは色んな意味でリスクが大きい。いま全国でやられているのは、独立を保ちながら提携をする。学部や学科を増やすのではなくて、提携によりネットワークを広げていくのも一つの方向性だと思う。

水野　定員割れが怖いということで、1年前から比べると7～8％上がっての急カーブで、そのシュミレーションをして行くと定員割れというのが全体的に出てくる。そのところで、解決するにしても、どういう形でやるのかを考えておかないと。下手なものをつかむと、逆に足を引っ張るという可能性もある。

鹿山　他の大学などで、大学間同士の提携と同時に私立高校を傘下に納めて行くという吸収合併が結構されていますね。

徳安　それも拡張の一つのパターンで、有名私大が次々に系列の学校を作ったり、高校、中学さらに小学校までおろしていわば囲い込みのような政策でやっている訳ですが。これは実際、ブランドのカンバンがつくと最初は喜ばれる様ですが大学の中から見れば大変なのです。

いまいろいろなところから、お話を戴くのですが、直接付属校を作るとか買収するという話しもありますが、大学の連携と同じで校外連携を強めて、直接何人受け入れますからという条件もなしで、色んなところの方向と連携を強めるやり方は考えている。

水野　指定校制度がありますが、相対的に法政に来てくれるいろんな県、遠方だけど来てくれる新潟、静岡、北海道とか学校単位でなく県単位で、多いところから選ぶ。それと同時に、前からも来ていて、なかなかいい成績の、入ってからの成績もいいというところがかなり試験的に何校かあるんですよ。そういうところを選んでやってみるとか。どういうところの学生さんが来てくれるかそれなりに考えなければいけない。

20周年記念式典

第一部　記念式典
　主催者、来賓挨拶・功労者表彰
第二部　記念講演
　星野知子さん（女優・80年卒中野ゼミ）
第三部　音楽会・懇親会
　ニューオレンジ　アリオンコール

社会学部同窓会
創立20周年記念事業

10月24日市ケ谷に集まろう！

記念誌の発行
記念誌編集委員会を設置し、本編＋会報復刻版を中心に当日の記録を加え発行

記念植樹
多摩キャンパスの学部棟付近に植樹

記念事業協賛金
1口2000円の協賛金の募金